

2027年度 学術研究員一覧

所 属	資 格	氏 名	種 別	期 間	国外研究:主たる目的国	国内研究:主たる研究先	研究概要	備 考
法	被選考者なし							
文	教授	黒木 貴一	長期 (1年)	2027.4.1 ～ 2028.3.31	ベルギー、ポルトガル、スペイン、オランダ、ノルウェー、デンマーク、ベトナム、タイ、カンボジア、マレーシア 他	関西大学、宮崎大学 他	西岸海洋性、地中海性、アジアモンスーンの各気候下の、様々な地形条件下で展開される暮らしを対象に、自然に柔軟な生活(家屋、食物、衣類等)と社会(交通、工業、農業等)の現地調査を行う。 日本の教科書記載内容との相違を確認し、自然地理学研究と教育の精度を高め、その上で入試等の本学業務への還元を図る。	
	教授	森本 慶太	長期 (1年)	2027.4.1 ～ 2028.3.31	スイス、ドイツ、フランス、ベルギー	関西大学	本研究では、第二次世界大戦後に西欧諸国を規定した観光振興の枠組みの構築プロセスとマス・ツーリズム形成との関係性を歴史学の立場から考察する。特にスイスをはじめとする西欧諸国の観光専門家が理論・制度・実践の各面で果たした役割を解明し、「可動性(mobility)」という視点から戦後西欧の社会史を展望する。	
	准教授	青木 敬	長期 (1年)	2027.4.1 ～ 2028.3.31	サントメ・プリンシペ、カーボベルデ	関西大学	本研究は、アフリカ島嶼国サントメプリンシペおよびカーボヴェルデにおいて、契約労働や移住に由来するディアスポラの歴史的経験を背景に、記憶と感情がいかに生成・再構成されるのかを、当事者の語りや音楽実践の参与観察と民族誌映画制作を通じて明らかにするものである。とりわけ〈ソダーテ〉(離別や不在に根ざす感情)に着目し、その生成と差異を両地域の比較を通して検討する。	
	准教授	熊谷 学而	長期 (1年)	2027.4.1 ～ 2028.3.31	フランス、イタリア、スペイン 他	関西大学、青山学院大学、東京大学、筑波大学 他	言語学では愛称語(hypocoristics)の研究が行われてきた。申請者は、日本語のデータベースの作成や実証実験を通じて、研究を進めている。しかし、他言語の愛称については、そのようなデータベースや実験を通じた研究は少ない。本研究では、ロマンス諸語、ゲルマン諸語、韓国語などの愛称に関する実証研究を実施し、各言語において好まれる愛称の音韻的・形態的特徴を明らかにすることを目的とする。	
	准教授	吉川 和希	長期 (1年)	2027.4.1 ～ 2028.3.31	中国、フランス、台湾	関西大学	広西師範大学(中国)の越南研究院、国立成功大学(台湾)の越南研究中心を受け入れとして研究活動に従事し、研究テーマに関する資料を収集すると同時に、学術交流や研究成果の発信をおこなう。また、フランス・パリの文書館・研究機関においても関連資料の収集と学術交流をおこなう。	
経済	教授	岡野 芳隆	長期 (1年)	2027.4.1 ～ 2028.3.31	インドネシア 他	関西大学、大阪大学	「ある状態を把握するために人々ほどの程度、情報を得ることにコストを支払うのか」「集団間・集団内協調行動の経済学的特徴の解明」「リスク選択の際に、自集団・他集団を含む周囲の人々の選択情報がどのような影響を与えるか」について、理論的な分析に加え、経済実験を通じた検証を行う。	
	准教授	松田 絢子	長期 (1年)	2027.4.1 ～ 2028.3.31	ネパール	関西大学	ネパールの都市部・農村部を対象に、女性の社会経済的地位に関する実証分析を行う。現地調査および介入研究を通じて、家計行動や意思決定への影響を検証し、地域間格差や生活環境の違いを踏まえながら、途上国におけるジェンダー課題に関する知見の創出を目指す。	
	教授	中澤 信彦	短期 (6カ月)	2027.4.1 ～ 2027.9.20	—	関西大学	本研究は、エドモンド・バークの思想を手がかりに、共感を単なる個人的感情としてではなく、他者の苦痛や不正に対する社会的・政治的応答を促す契機として捉えなおし、アダム・スミスとは異なる経済社会の規範的構想を思想史の観点から明らかにすることを目的とする。	
商	教授	陰山 孔貴	長期 (1年)	2027.9.21 ～ 2028.9.20	タイ、シンガポール、マレーシア、中国、インド 他	関西大学	優れた経営人材の育成は昨今の日本の大きなテーマである。特に近年はコーポレート・ガバナンスなどの議論も盛んに行われている。本研究では、日本のプライム市場にある大企業を主な研究対象とし、創業者ではないサラリーマン経営人材の育成について各社がどのように取り組んでいるのか、調査を行い、それを体系的に書籍としてまとめることを目指す。	
	准教授	田村 香月子	長期 (1年)	2027.9.21 ～ 2028.9.20	アメリカ、イギリス、オーストラリア、シンガポール、ベルギー	関西大学、日本証券経済研究所 他	近年ESG債市場は国際的に拡大しているが、ESG格付会社ごとに同一企業・同一債券であってもESG評価が乖離する現象が生じている。また債券の投資情報となる信用格付とESG評価との関係性は十分に解明されていない。そこで本研究は社債のESG評価の差異が、社債投資における情報形成にどのような影響を与えているかを国際制度比較により明らかにする。	
	教授	西岡 健一	短期 (6カ月)	2027.10.1 ～ 2028.3.31	シンガポール、インドネシア、タイ、イタリア	関西大学、東京女子大学	企業による社会課題の解決活動は注目を浴びているが、本研究はそれに対して技術革新とサービスビジネスにより、新たなビジネスモデルの開発を目指している。今回のプロジェクトにおいては、防災とビジネスの持続可能性をテーマに、最新のマーケティング手法を用いて、ビジネスモデルの開発を行う。	

2027年度 学術研究員一覧

所属	資格	氏 名	種別	期 間	国外研究:主たる目的国	国内研究:主たる研究先	研究概要	備 考
社会	教授	土屋 敦	長期 (1年)	2027.9.21 ～ 2028.9.20	イギリス	関西大学	イギリスにおける戦後の戦争孤児や浮浪児などの「家庭のない子ども」に対する児童福祉制度の形成を、特にボウルビー革命と言われた1950～60年代の動向を中心に歴史社会学の視座から解明するとともに、同時期に形成された政策フレームがいかなるかたちで日本社会の児童福祉政策へと応用されたのかを分析する。	
	教授	細越 寛樹	長期 (1年)	2027.4.1 ～ 2028.3.31	アメリカ	関西大学、慶應義塾大学病院痛み診療センター、武蔵野大学認知行動療法研究所	従来の慢性痛に対する心理支援では、痛みの軽減よりもQoLやADLの向上が目指されてきた。しかし、EAETやPRT等の最新の体験的アプローチでは痛み自体の軽減が報告されている。それらの創始者らとの研究交流を通じて、それらの知見を得ると共に、本邦で心理支援の社会実装をいかに進められるか、その実践を担う臨床家の養成に何が必要か、多面的に検討する。	
	教授	杉本 舞	短期 (6カ月)	2027.4.1 ～ 2027.9.20	アメリカ、イギリス、ベルギー、ドイツ	関西大学、筑波大学、産業技術総合研究所、国立国会図書館 他	いわゆる「第2次AIブーム」と呼ばれた1970年代から1990年代における人工知能開発の歴史について、第五世代コンピュータプロジェクトとリアルワールドコンピューティングプロジェクトを含む日本国内の状況と、それに対する米国・欧州の反応について、歴史学の観点から調査・分析し、その全体像を明らかにする。	
政策 創造	教授	吉川 大介	長期 (1年)	2027.9.21 ～ 2028.9.20	イギリス、カナダ	—	地政学リスクが常態化する中、グローバルな不確実性の指標として暗号資産を組み込んだ新たな資産価格モデルを構築する。具体的には、機械学習を用いて株式収益率の条件付き確率分布を非線形に推定する。さらに経済学の不確実性理論を応用してモデルの頑健性を高め、ヘッジ戦略への適用を通じて実証的・実務的な有効性を検証する。	
	教授	柄谷 利恵子	短期 (6カ月)	2027.10.1 ～ 2028.3.31	イギリス	関西大学 他	帝国としての歴史を持つ英国において、植民地独立、欧州連合への加盟と離脱を経て、歴代政府は「英国人」の定義の「国民化」を目指してきた。旧宗主国における脱植民地経験を、国籍・入国管理政策の役割に注目して検討する。	
	教授	後藤 元伸	短期 (1～3カ月)	2027.7.21 ～ 2027.9.20	ドイツ、フランス	—	ドイツ法上の民法上の組合、匿名組合、および法人格のない社団と、これらに対応するフランス法上の法人でない団体（匿名組合、届出のない社団）を対象に、比較法学的・総合的研究を行う。仏独両国において法人格を有しない形態として存置されている諸団体の構造と展開を分析し、両国の規律の相関関係を明らかにする。あわせて、現在のEU法状況下における「法人でない団体」の意義についても検討することを目的とする。	
外国語	教授	阿南 順子	長期 (1年)	2027.4.1 ～ 2028.3.31	ルーマニア、フランス、イギリス、台湾	関西大学、早稲田大学演劇博物館、東京藝術大学	近年、日本の劇団による海外公演が増えてきている。本研究は、アジアとヨーロッパに焦点を当て、日本のパフォーマンス・アーツ作品がどのように理解され、受容されているのかを検証する。日本特有の表現やテーマは、異なる文化圏では理解されないことも多く、アーティストだけでなく現地の受け入れ側にもさまざまな工夫や試みを要する。実例を調査することで、アート実践を通じた異文化理解を促進する教育の研究にも繋げたい。	
	教授	植木 美千子	長期 (1年)	2027.4.1 ～ 2028.3.31	フランス、ドイツ、スペイン、イギリス、イタリア、フィンランド、中国、韓国、台湾	—	英語と英語以外の外国語の動機づけや多言語学習の価値観の変容を、縦断的により解明することを目的とする。クロス留学に参加する学習者を対象に、留学前・中・後における変化の軌跡を分析、加えて、学習者コミュニティにインタビューを実施することで、相互行為の中で動機づけがどのように形成・維持・調整されるのかを明らかにする。	
人間 健康	准教授	佐野 加奈絵	長期 (1年)	2027.9.21 ～ 2028.9.20	ドイツ	関西大学、産業技術総合研究所つくばセンター、大阪体育大学	脊柱側弯症などの関節変形はQOL低下を招き様々な年代で問題視されているが、ヒト生体レベルでの発症メカニズムは明らかにされていない。本研究では、様々なイメージング技術を応用し弯曲部位周辺の筋や骨などの運動器を着實的に評価できる手法を確立し、関節変形に関わる形態的・機能的特徴を明らかにすることで、発症機序解明研究に着手する。	
	教授	小室 弘毅	短期 (6カ月)	2027.4.1 ～ 2027.9.20	台湾、タイ、アメリカ	—	AIの進展とともに人が学ぶ意義が問われるようになってきている状況で、その解決の手掛かりが身心相関論に基づく身体性である。そのため学びの人間形成論の観点からソマティクスとマインドフルネスの研究を行う。ソマティクス研究のメッカである台東大学とCIRS(カリフォルニア統合学研究所)並びにエサレン研究所で調査を行い、またタイ、アメリカでマインドフルネスの調査を行う。	
	教授	彦次 佳	短期 (6カ月)	2027.9.21 ～ 2028.3.20	イタリア、オーストラリア、フィンランド	関西大学、兵庫県西宮市 他	本研究では、日本では未だ例のないオープンマスターズイベントについて、国際レベルの事例となるOpen Masters Series 2027 Como Lake(World Masters Sport主催)および、国内メイン・複数国レベルの事例となるAustralian Masters Games 2027において、主催者および参加者への調査とイベント全体のフィールドワークを行なう。また、我が国独自のスポーツ文化から派生した同窓会型(メンバーシップ)マスターズスポーツイベント・マスターズ甲子園も対象とし、国外で開催される先進的な事例と我が国で開催される事例の調査研究から、日本でのオープンマスターズスポーツイベントの開催意義と可能性、そして日本型オープンマスターズイベントの開催に向けた必要要件を探ることとする。	
	教授	村川 治彦	短期 (6カ月)	2027.10.1 ～ 2028.3.31	オーストリア、ドイツ、イギリス、シンガポール、台湾、アメリカ	関西大学、上智大学グリーフケア研究所	本研究では、人間の健康とウェルビーイングをテーマとしてきた「宗教」についての新たな態度として、「ケアが根づく社会システム」構築の諸実践を、「自然観」と「死生観」の2つに焦点をあてて調査研究を行う。具体的には、①ポスト資本主義の脱成長パラダイムとして欧米や日本で実践されている環境再生型「リジェネラティブ農業」の背景にある自然観の根本的転換の系譜をケアの観点から検討する。②オーストラリアやカナダ、欧州などキリスト教圏において死に行く人の新たなケアとして実践されているCompassionate Communityと、それらとは異なる宗教的伝統に根ざした日本やアジア諸国における看取り文化構築の取り組みについて調査する。	

2027年度 学術研究員一覧

所属	資格	氏 名	種別	期 間	国外研究:主たる目的国	国内研究:主たる研究先	研究概要	備 考
総合 情報	教授	岡田 朋之	長期 (1年)	2027.4.1 ～ 2028.3.31	セルビア、イギリス、オランダ	関西大学、名城大学、筑波大学	社会の分断の克服に向けて、大規模メディアイベントでのデジタルメディアの利活用の方策および実装化のあり方の検討をおこなうとともに、インクルーシブなメディアデザインがメディアイベントの場でどのように具体化できるか、その可能性を探る。	
	教授	浅野 晃	短期 (6カ月)	2027.4.1 ～ 2027.9.20	フィンランド	関西大学、北海道教育大学	現在は、色彩と視覚感性の研究を行っている。これは、色彩が人に与える心理的効果や、動的な色彩の変化に対する人の感覚、図形や色彩に対してもつ人の印象、服装や化粧など「装い」がもつ印象を定量的に分析・研究するものである。また、データサイエンスの知識を利用して、「衣生活分野教育の再構築」におけるデータ分析からの支援も行っている。	
	教授	古賀 広志	短期 (6カ月)	2027.4.1 ～ 2027.9.20	フィンランド、ドイツ、オランダ	関西大学、明治大学	本研究では、行動履歴データ活用における倫理的課題の緩和に企業博物館やSNSでの発信による価値創造がいかなる貢献を果たしているのかを検討する。具体的には、顧客情報活用による顧客満足などのコミュニケーションコンテンツを精査し、そこから倫理的課題を析出したい。	
社会 安全	教授	細川 茂雄	長期 (1年)	2027.9.21 ～ 2028.9.20	カナダ、ポルトガル	関西大学、神戸大学、日本原子力研究開発機構、北海道大学、熊本大学、琉球大学、京都工芸繊維大学、室蘭工科大学 他	工場機器やプラントの事故には、沸騰や2流体の混合など界面を通した熱・物質・運動量輸送が深く関わっている。事故の早期収束、拡大抑止、未然防止のためには、界面でのこれらの物理現象を理解する必要があるが、未だ十分な知見が得られていない。本研究では、計測手法の高度化を通して、これらの物理現象の理解深化を図る。	
ビジネス データ サイエンス	被選考者なし							
システム 理工	教授	前 泰志	短期 (6カ月)	2027.4.1 ～ 2027.9.20	フランス、スペイン、ポルトガル、ドイツ、オーストリア、カナダ	—	人とロボットの共存空間においてはロボットの移動、作業に人とのインタラクションが生じ、人社会に受容されるロボットの動作が求められる。人と調和した知能ロボットシステムの構築を目的とし、人との自然なインタラクションを伴った新たなロボットの移動や作業動作生成法やセンサ統合手法の調査研究、研究開発を行う。	
	教授	和田 友孝	短期 (1～3カ月)	2027.6.21 ～ 2027.9.20	アメリカ	—	災害時の被災情報、避難誘導経路などの情報収集に関する研究を行う。特にスマートフォンやIoTデバイスから収集するセンサデータを効率的に収集し、AIを活用して人の行動状態認識、災害情報認識を行い、適切な避難誘導ができるシステムを構築する。災害情報の種類は様々であるため、それらの情報を適切かつ効率的に管理する手法についても検討を行う。また、移動するモビリティへの情報伝達方法についても検討を行う。	
環境 都市工	教授	尹 禮分	長期 (1年)	2027.9.21 ～ 2028.9.20	オーストリア	—	機械学習による災害リスク予測、数理最適化による避難・支援物資配分、およびシステム分析を統合した意思決定支援手法を構築する。IIASAでの研修を通じ、政策志向の国際的視点を取り入れ、限られた情報・資源下での災害対応と都市・社会システムのレジリエンス向上に資する研究へ発展させる。	
化学 生命工	被選考者なし							
法務	被選考者なし							
会計	教授	松本 祥尚	長期 (1年)	2027.4.1 ～ 2028.3.31	アメリカ	関西大学、青山学院大学	監査・保証による証明の対象が過去財務情報からより主観性や将来性の高い曖昧な情報に拡張されたとき、既存の監査手続が保証手続として、具体的にどのような保証命題を設定し、実施する手続を拡張し、入手された証拠を評価し、そして最終的に結論の表明によって、どの程度の水準の保証を提供できるのか、を検討する。	
教育 推進	被選考者なし							
国際	被選考者なし							